



厚生財団

KOSEIZAI DAN

一般財団法人 新潟県教職員厚生財団 TEL 025 (228) 3581 URL <http://www.koseizaidan.or.jp>
〒951-8516 新潟市中央区東中通1-86-73 FAX 025 (224) 8830 E-mail info@koseizaidan.or.jp

TOPICS (主な内容)

- 令和元年度 役職員の紹介 P.2
平成30年度 会計決算・事業報告 P.3
災害見舞金 判定基準改正のお知らせ
普通事業助成 申請受付中 P.4
雪里の小さな自然科学館
「森の学校」キョロコの挑戦 P.6

新潟県の文化財シリーズ

目黒邸は寛政9年(1797年)に11代五郎助が建てた割元庄屋(大庄屋職)の役宅を兼ねた豪農住宅です。豪壮な茅葺屋根が目目を引く主屋には、正面に千鳥破風がつき、かつての役宅に威厳を感じさせます。屋内に入ると土間と炉地があり、高い敷居を超えて茶の間へと上る形になっています。豪雪地帯の農家の特徴を備え、近世村役人層の典型的な居宅として、貴重な文化財となっています。



■ 目黒邸
国指定重要文化財

写真提供・文 魚沼市教育委員会 生涯学習課 文化財係
魚沼支部長 魚沼市立堀之内小学校長 山之内 方史 様

先達の思い、106年

理事長 桑 原 直 哉



1914(大正3)年1月25日、「新潟県小学校教員互助会」が誕生しました。安藤知事が総裁、木間瀬新潟県内務部長が初代会長となり、翌26日、新潟県庁内学務課の一角を間借りして業務が開始されました。これが「厚生財団」の始まりです。しかしながら、その先駆けとなったのは、1902(明治35)年4月に創設された「南魚沼郡小学校教員互助会」でした。

この互助会は、南魚沼郡内の小学校に奉職する正教員で組織し、同僚の疾病難を助け、多年勤続したものを優遇することを目的として、毎月、月給の200分の1を拠出するものでした。その後、各郡市で設立された互助会が統合されて「新潟県小学校教員互助会」となり、現在の「厚生財団」に至っています。

創設時の定款第3条に「本会ハ会員不時ノ災厄老後ノ準

備ノ為平素定率ノ積立金ヲ為シ後顧ノ患ナク安シテ其ノ職務ニ従事セシムルヲ以テ目的トス」とあります。

現在の定款第3条は「この法人は、新潟県内教職員の会員に対する福利厚生事業を行うことにより会員相互の生活安定と福祉の増進を図るとともに、新潟県民のための教育・文化活動への助成を行い、教育の振興発展に寄与することを目的とする。」です。

106年の間、時代の実情に沿って、定款も変遷してきています。事業内容についても同様です。それでも、理念は創設時から変わらなく脈々と受け継がれています。これからも、先達の思いを心に刻みながら、県内教職員全員で、106年間の相互扶助による福利厚生を充実・発展させていきたいものです。

よろしくお願いいたします。

令和元年度 役職員の紹介

◆顧問・理事・監事◆

職名	氏名	所属所名
顧問	高橋 信	新潟県教職員厚生財団
顧問	涌井 昭夫	新潟県教職員厚生財団
顧問	長谷川 豊	新潟県学校生活協同組合
理事長	桑原 直哉	新潟県教職員厚生財団
副理事長	八木 克洋	新潟県教職員組合
専務理事	坂井 育男	新潟県教職員厚生財団
常務理事	猪股 博英	新潟県教職員厚生財団
理事	市川 亮	新潟県立新潟高等学校
理事	中戸 義文	新潟県立新発田高等学校
理事	今井 聡己	新潟県立江南高等特別支援学校
理事	高橋 恒彦	新潟市立鳥屋野中学校
理事	吉田 隆	新潟市立新潟小学校
理事	鈴木 正美	村上市立村上小学校
理事	熊倉 達也	長岡市立阪之上小学校
理事	関谷 祐二	長岡市立表町小学校
理事	佐藤 幹夫	上越市立城西中学校
理事	中島 秀晴	上越市立大町小学校
理事	宮野 正則	妙高市立新井小学校
理事	清水 伸二	新潟県学校生活協同組合
理事	新井 秀和	新潟県学校生活協同組合
理事	青柳 拓二	新潟県教職員組合
監事	鷲尾 哲郎	長岡市立東北中学校
監事	前澤 正人	小千谷市立小千谷中学校
監事	中島 崇	新潟県教職員組合
監事	永松 司	大樹生命保険(株)新潟支社

◆評議員・支部長◆

支部	評議員	所属所名	支部長	所属所名
新潟北区	戸川 美子	早通南小学校	石田 正文	松浜小学校
新潟東区	渡辺 真也	牡丹山小学校	石川 治	東山の下小学校
新潟中央区	大井 隆	上所小学校	須田 哲明	沼垂小学校
新潟江南区	川又 健司	東曾野木小学校	津野 治彦	亀田小学校
新潟秋葉区	間嶋 哲	新津第三小学校	田邊 裕一	新津第一小学校
新潟南区	椿坂 恭永	根岸小学校	上澤田 誠	大通小学校
新潟西区	武井真一郎	立仏小学校	杉中 規彦	青山小学校
新潟西蒲区	松野 孝雄	曾根小学校	小濱 亨	巻北小学校
新潟市中学校	伊藤 雅人	上山中学校	若月 弘久	白根北中学校
長岡・三島	若月 典明	中島小学校	宮 宏之	旭岡中学校
上 越	中野 英康	大湯町小学校	竹内 学	直江津中学校
三 条	小林 徹哉	裏館小学校	土田 栄林	栄中学校
柏崎・刈羽	佐藤 克己	刈羽小学校	若月 俊彦	瑞穂中学校
新 発 田	佐藤 政志	第一中学校	藤井 聡	御免町小学校
小 千 谷	佐藤 務	東小千谷小学校	岡村 秀一	小千谷小学校
加茂・南蒲	北山 智博	田上中学校	栢森耕太郎	加茂小学校
十日町・中魚	若林 靖人	南中学校	山岸 一朗	十日町小学校
見 附	小堺 和也	西中学校	高橋 正則	見附小学校
村上・岩船	島田 芳樹	さんぼく小学校	今井 学	岩船中学校
燕・西蒲	水戸 巖	分水中学校	長谷川 栄	吉田小学校
糸 魚 川	西脇 倫明	能生中学校	松永 勝栄	根知小学校
妙 高	藤田 由江	新井北小学校	村井 友明	新井中学校
五 泉	高津 清一	愛宕小学校	甲斐 浩之	村松小学校
阿賀野・北蒲	三浦 学	聖籠中学校	佐藤 元彦	水原小学校
佐 渡	香遠 正浩	金井中学校	新発田 靖	金井小学校
胎 内	丹後 裕	胎内小学校	石塚 文弘	中条小学校
魚 沼	樋口 健一	小出小学校	山之内方史	堀之内小学校
南 魚 沼	滝沢 正浩	城内小学校	長澤 俊英	六日町中学校
東 蒲 原 郡	長谷川秀夫	阿賀津川中学校	丸山 裕輔	上川小学校
高 等 学 校	柳沢 幸也	高田北城高等学校	上原 洋一	新潟中央高等学校
高 等 学 校	中田 亮一	三条高等学校	—	—
高 等 学 校	仲野 孝	新潟商業高等学校	—	—
特別支援学校	長谷川 紘	高田特別支援学校	小玉 義明	はまなす特別支援学校
大 学	—	—	藤村 忍	新潟大学農学部
新 事 研	諏佐ます子	長岡南中学校	—	—

◆厚生財団職員

事務長	田中 英幸	主 査	茂野 恵子
主 任	山口 隆行	書 記	渡辺 美季
書 記	渡邊 健	書 記	今井 典昭
書 記	長谷川あゆ美	参 与	安田 典彦

退任のごあいさつ「登山から下山へ」

前理事長 涌井 昭 夫



「義務教育は先生も、教科書も、夢もある、大人になるための「登山の教育」 高齢者の学びは老いに対する覚悟と備えを学ぶ「下山の教育」というコラム(※)を読みました。

「毎朝6時前に家を出て、夜7時過ぎに帰宅」というフルタイム常勤の6年間が終わりました。

私にとって未知に近い厚生財団での仕事でしたが、幸いにも職員をはじめとして、多くの団員の皆さんから支えていただき、役割を果たすことができました。今後60余年続く厚生財団の「教育文化活動助成事業」は、最後まで見届けることはできませんが、これからも厚生財団と団員の皆さんの取組を、可能な限り少しでもサポートしてまいります。

ありがとうございました。心から感謝申し上げます。これで「私の登山の教育」は終わりです。

登山中に描いた「小説を書く」「作曲する」「百名山に登る」といった「夢」は、夢のまま終わるかもしれませんが、「人との交わり」を大切にしつつ、「新たな人との出会い」はこれからも求め続け、終活に向かってゆっくり下山してまいります。

※100歳時代プロジェクト会議ライフプラン委員会委員 元滋賀県知事「國松善次」さんの言葉

専務理事ごあいさつ

坂井 育 男



平成29年に厚生財団に着任し、3年目を迎え、この度専務理事を拝命いたしました。

常務理事の2年間は主に、新採用職員の入団加入促進を担当させていただき、27～30年度4年連続で目標の90%を達成することができました。新採用の皆様はもちろん、入団を勧めていただいた校長先生、事務担当、職場の同僚の皆様感謝申し上げます。

公的年金受給年齢の引き上げ、退職金の減額等、今後の労働環境は変化を余儀なくされています。これからも、団員の皆様の資産形成・福利厚生のお役に立ち、教育活動助成など教育現場を側面から応援できるように努めて参ります。

常務理事ごあいさつ

猪股 博 英



この6月1日付けで常務理事に就任いたしました。

県内教職員の相互扶助を目的に、福利厚生事業を行っている一般財団法人新潟県教職員厚生財団の職に就かせていただくことができましたこと大変光栄に感じております。当厚生財団は今年度で創立106年目を迎えた国内でも歴史ある団体です。

私自身も現職時代、人間ドック等の受診補助・サークル活動の助成等で大変お世話になりました。多くの教職員の皆様にご加入、ご活用いただけるようお役に立ちたいと考えております。

平成30年度 会計決算・事業報告

正味財産増減計算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位：円)

経常増減の部	
経常収益	511,428,427
基本財産運用益	405,000
特定資産運用益	5,429
資金運用収益	405,316,106
事業収益	105,695,472
雑収益	6,420
経常費用	418,731,121
事業費	230,496,819
管理費	188,234,302
当期経常増減額	92,697,306
経常外増減の部	
経常外収益	0
経常外費用	0
当期経常外増減額	0
正味財産の部	
税引前当期一般正味財産増減額	92,697,306
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	92,627,306
一般正味財産期首残高	2,825,733,299
正味財産期末残高	2,918,360,605

正味財産は、貸借対照表の資産から負債を引いた額で、企業会計の純資産に該当するものです。

また、「正味財産増減計算書」は当該年度の正味財産の増減状況を適正に表示したもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。

貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位：円)

資産の部	
流動資産	3,020,690,731
現金・郵便振替・普通預金	1,702,176,936
定期預金・有価証券	1,240,000,000
前払金・未収金等	78,513,795
固定資産	35,996,631,744
基本資産(有価証券)	50,000,000
特定資産(退職給付引当)	58,670,000
償却資産(建物・構築物・什器備品・リース資産)	256,777,243
土地	163,258,520
貸付金	5,079,910,269
有価証券	30,388,015,712
資産合計	39,017,322,475
負債の部	
流動負債	89,819,312
未払金・リース債務・前受金等	6,916,111
保険料預り金	80,498,066
期末勤勉手当引当金	2,405,135
固定負債	36,009,142,558
リース債務	2,817,504
積立金	35,947,655,054
退職給付引当金・役員退職慰労引当金	58,670,000
負債合計	36,098,961,870
正味財産の部	
一般正味財産	2,918,360,605
正味財産合計	2,918,360,605
負債・正味財産合計	39,017,322,475

◆ 団員数・厚生資金積立金 平成31年3月31日現在

	団員数	厚生資金積立金
現職団員	18,882人	265億1,073万円
継続団員	4,208人	94億3,692万円
合計	23,090人	359億4,765万円

◆ 新規貸付状況

種別	件数	貸付金額
生活資金	614件	4億3,966万円
自動車資金	252件	4億5,085万円
結婚資金	17件	2,720万円
入学資金	50件	1億1,120万円
学資金	108件	1億8,580万円
住宅・宅地資金	20件	8,700万円
合計	1,061件	13億171万円

◆ 生命保険団体取扱い事業 (三井生命 ※現 大樹生命)

種類	内訳
普通保険	保有件数 4,655件 保険金額 224億2,338万円
教職員年金制度	加入人数 2,008人 加入口数 54,747口

◆ 厚生費贈与事業

①普通厚生費	総額 3,145万円
	1人平均贈与額 1,362円
	年度末に全団員に贈与(個人の積立金に繰入れ)
②特別厚生費	

種別	件数	贈与金額
弔慰金	67件	736万円
災害見舞金	16件	140万円
病氣見舞金	558件	1,114万円
香げ料	1,257件	2,048万円
結婚祝金	330件	1,617.5万円
就学祝金	558件	1,112万円
出生祝金	610件	1,215万円
永年団員祝金	1,724件	4,257万円
合計	5,120件	1億2,239.5万円

◆ 厚生・補助・あっせん事業

種類	内訳
教職員手帳	現職団員(希望者)と継続団員
総合健診等	総合健診(人間ドック) 1,224人
受診料補助	オプション検診 1,627人
退職準備金借入	1件

◆ 公益目的支出計画実施報告書 平成26年4月1日～平成31年3月31日

1. 公益目的財産額	14億435万円
2. 当該事業年度の公益目的支出累計額 (①+②-③)	1億1,357万円
①前事業年度末日の公益目的支出累計額	9,033万円
②当該事業年度の公益目的支出の額(平成30年4月1日～平成31年3月31日)	2,324万円
③当該事業年度の実施事業収入の額	0円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	12億9,078万円

特別厚生費「災害見舞金」 判定基準の一部改正について

「災害見舞金」は、団員が火災・水害・地震並びに風雪害等の災害によって居宅に損害を受けたときに贈与される特別厚生費です。去る5月17日に開催された令和元年度第1回理事会において、下表のように災害見舞金判定基準が改正されました。

なお、この新しい基準は平成31年4月1日以降に請求事由が発生したものから適用されます。請求する際は、添付書類として「罹災証明書」(又は被災証明書)をご用意ください。

災害見舞金判定基準 (新)

平成31年4月1日～

判定	居宅の損害程度			災害見舞金	
	火災	水害	地震	自家	借家・借間
①	全壊(全焼)	全壊(流失)	全壊	30万円	15万円
②	大規模半壊	大規模半壊	大規模半壊	20万円	10万円
③	半壊	床上浸水	半壊	10万円	5万円
④	一部損壊	床下浸水	一部損壊	5万円	3万円
⑤	風雪害等			2万円	1万円

※災害見舞金の対象となる居宅は、団員が現に生活の本拠地として居住する建造物です。別棟の離れ家、物置、車庫・カーポート等、家財や宅地の損害は該当しません。

新潟県民のための教育・文化活動助成事業

～新潟県内の教育振興に寄与する団体や事業を支援しています～

地域の伝統文化・芸術の継承活動や教職員同士のサークル活動、研究指定を受けた学校・団体などを対象とした令和元年度の「普通事業助成」の申請を受け付けています。希望する団体は、厚生財団ホームページから「普通事業助成申請書」を取得し、期日までにご提出ください。

助成対象

- 伝統文化・芸術、サークル活動等
- 研究指定校・研究物発刊団体等

申請期限

10月31日(木)
当日消印有効

昨年度に引き続き助成を希望する団体も、改めて申請が必要です。詳細については厚生財団までお問い合わせください。

「退職を祝う会」を開催いたしました

平成30年度末で退職された皆様に、長年ご加入いただきました感謝の意を込めて退職を祝う会を開催いたしました。ご出席の皆様には、久しぶりに再会した旧友との会食を楽しんでいただき、好評のうちに終えることができました。

地区	月日	会 場	参加者数
上越	6/13	や す ね	21名
中越	6/18	ホテルニューオータニ長岡	65名
下越	6/25	ホテルイタリア軒	108名

(招待者は在団期間25年以上の方が対象です)



永年団員祝金の贈与 振込口座報告のお願い

下記に該当する現職団員へ、「永年団員祝金」として1万円を贈与します。該当者には、ご案内を送付しましたので受取金融機関を記入してご返送ください。

なお、平成8年度以前に入団された団員は、退団時に一括贈与しますのでご案内は送付していません。

【提出期限】 7月12日(金)

【対象者】 平成10年度入団者(20年経過)
平成20年度入団者(10年経過)

【贈与金額】 10,000円

【送金日】 9月30日(月)

事務局から

退職準備金借入銀行幹旋 北越銀行の取り扱い終了

厚生財団では条件を満たした団員へ、退職金を担保とした退職準備金の借入を所定の銀行に幹旋する事業があります。幹旋する銀行は、第四銀行・北越銀行・大光銀行の各本支店でしたが、この度、北越銀行の取り扱いを終了しました。ご理解をお願いいたします。

教職員手帳の申込みは9月末日まで

2020年版 手帳・ダイアリーの品目変更を希望する現職団員は、9月末日までにお申込みください。申込みがない場合は前年と同じものを贈与します。(継続団員は全員に手帳を差し上げます。)

また、再任用で継続団員に加入されている方には、一律に手帳をご自宅へ送付します。

■各種払込金の照会をするには団員マイページ！

新潟県教職員厚生財団

検索

団員マイページにログイン後“払込残高明細書”をクリック
パスワードをお忘れの場合は厚生財団までご連絡ください。



BESTパートナー
大樹生命
日本生命グループ
ALL for ALL.
ひとつひとつの、夢によりそう。



2019年4月1日より、 三井生命保険株式会社は 大樹生命保険株式会社に 社名を変更しました。

“大樹”のように、しっかりと大地に根を張り、
お客さまを守り、よりそっていくという想いを込めて、
『大樹生命』と命名いたしました。

一般財団法人 新潟県教職員厚生財団の2019年度新潟県教職員年金制度(正式名: 拠出型企業年金保険)は
9月2日(月)からお申込み受付開始予定です。詳細は7月末頃にご案内いたします。
ご加入の際には、パンフレットにて詳細を必ずご確認ください。

【引受保険会社】
大樹生命保険株式会社 新潟支社
〒950-0087 新潟県新潟市中央区東大通1-3-10 大樹生命ビル6F TEL:025-243-6877
<https://www.taiju-life.co.jp/>

大樹-KB-2019-488

雪里の小さな自然科学館「森の学校」キョロコの挑戦

第2回 三つのコンセプトと地域づくりの仕組み

～自然を活かした『地域を創るサイエンス』を目指して～

村山 暁（十日町市立里山科学館「森の学校」キョロコ館長）

地域づくりを目指す

世界有数の豪雪地である十日町市松之山には、多雪地特有の生物多様性が育まれていて、これを抛り所に特有の伝統知が生まれ、人々は持続的に里山の生物多様性の恵み（生態系サービス）を利用してきた。少子高齢化など里山の社会的課題を背景に、里山の自然や文化を将来にわたって受け継ぐためには、その価値が持続的に活用され、地域づくりにつながる大きな力となる。キョロコは、自然科学館として得た地域の生物多様性情報を「地域づくり」につなげることを大きな目的にしている。里山の魅力や価値を「みんなで調べ、つなぎ、伝え、行動する」博物館活動を通じて、地域資源を「活用」しながら「のこす」ことが、生物多様性の恵みを活かした協働の地域づくりにつながると考えている。キョロコでは、「等身大の科学」「住民皆科学者」「地域全体博物館」というコンセプトの元、松之山の里山に関わる一人ひとりの行動が地域づくりにつながるよう、自然科学館の機能を活かした仕組みづくりに取り組んでいる。

コンセプト1 『等身大の科学』

—サイエンスは身近にある—

私たちが自然を理解するために「科学」はとても有効なツールである。しかし、科学は決して専門家だけのものではない。地域住民が生活の中で伝統的に育んできた自然への観察眼や伝統知は、里山の自然の理解に大きなヒントを与えてくれる。また、自然を前にした「なぜだろう?」「もっと知りたい」などと思う素朴な疑問、等身大の好奇心や探究心が、地域の自然の理解や課題解決につながる大きなきっかけになる。そんな視点「等身大の科学」から里山の深い理解を実現するために、様々な気づきや関わりを促す展示や体験イベント、市民協働調査を開催している。

コンセプト2 『住民皆科学者』

—博物館の主役はキミだ!—

キョロコでは展示物だけが博物館の主役ではなく、博物館に関わる「人」を主役にしたと考えている。里山に暮らす人々の中には、地域の自然に対して豊富な知識と観察眼を持つ人がいて、地域

内外の里山の自然に対して強い関心を持ち、より詳しく知りたいと考えている人もたくさんいる。キョロコでは、展示や参加型調査、ガイド研修などを通して里山について学ぶ一方で、そんな皆さんに里山について調べ発信する主役になっていただいている。松之山の里山に関わる一人ひとりの「もっと知りたい」「発信したい」「行動したい」という思いが、里山の自然や文化の理解やその保全、そして地域活性化につながることを期待している。

コンセプト3 『地域全体博物館』

—あたりまえのものが宝物—

里山の自然や文化の中にある一見何も珍しくないようなコトやモノも、博物館を通して観てみると何物にも代えがたい宝物になる場合がある。そんな地域資源の価値づけ、意味づけは、博物館が持つ「地域を調べる」という機能により支えられている。キョロコでは皆さんと共に、里山に当たり前にある「コトやモノ」を調べ、価値を見つけ、発信していくことに取り組んでいる。そのために、里山の生物多様性や伝統的な文化に関する様々な地域資源情報を発見・調査・共有化し、『地域全体博物館』の実現を目指している。

